

332アーク溶接装置を起因物とする死傷災害100事例まで（2019年）

No	年	月	発生時	死傷災害事例	年齢	事故の型	小業種	労働者規模
1	2019	1	11 ～ 12	工場内にて、柱の溶接作業中（脚立を使用、ヘルメット着用）、溶接の火花が飛び散り作業服に燃え移り、左脇腹を火傷した。	22	11	11209	50 ～ 99
2	2019	1	16 ～ 17	造船場内で、上を向いて溶接作業をしていた際に作業着の中に火の粉が入り、上着が燃えて胸部に火傷を負った。	64	11	11501	10 ～ 29
3	2019	3	13 ～ 14	配管溶接作業中、高さ2mの足場上でデッキスカッパーの溶接をしていた際、胸部・背部・気道に熱傷を負った。	60	11	11501	10 ～ 29
4	2019	3	16 ～ 17	組み立て課作業場で、テーブルスポット溶接機の先端チップから水漏れがあったため、チップの根本にシールを巻いた後、元に差し込んだ。使用前の加圧テストを始めるために、右手でチップを握ったままの状態（本来は握ってはならない部分）で稼動ペダルを踏んだ直後、その強い勢いで、右手、人差し指がチップと定盤の間に挟まれ、不全切断複雑骨折を負った。	30	7	11209	50 ～ 99
5	2019	4	15 ～ 16	道具置場の倉庫内で、50kg程度の溶接機を移動中、ハンドパレットに乗せた溶接機を仮置架台に合図が合わず、溶接機と仮置架台のアンクルに左手指を挟み負傷した。	21	7	30309	30 ～ 49
6	2019	5	9 ～	当社工場内にて、溶接作業中、火花が上着（防護用エプロン着用）に燃え移り、気付くのが遅く、衣類が燃え、胸部を火傷した。	56	11	11209	10 ～

			10							29
7	2019	7	8 ～ 9	倉庫内で、台風で壊れた日除けを修復していたとき、折れた単管の柱を溶接する際に溶接の鉄粉が右目に入り負傷した。	64	4	30209			10 ～ 29
8	2019	8	13 ～ 14	派遣先の工場内溶接作業場にて、自動溶接機の治具に部品をセットしたとき、手を滑らせて部品が右手中指に当たった。その際、本来は革手袋着用のところ、外していたため、右手中指第一関節辺りに創傷を負った。	50	8	170101			100 ～ 299
9	2019	10	9 ～ 10	本社工場内にて溶接作業中に、溶接の火が作業服に燃え移り左脇腹に熱傷を負った。	48	11	11301			1～ 9
10	2019	11	10 ～ 11	ドッグ内の船中で、上部を上向きで溶接中、火花が服に付着し、保護具・綿製作業服を着用していたが、ポリエステル製の下着の消火が遅れ、腰背部の熱傷を負った。	61	11	170101			1～ 9
11	2019	11	8 ～ 9	工場内にて、自動車部品のナット付けを溶接機で作業中、電極交換をした際、電極の上部と下部の間に左手中指を挟み、挫滅創を負った。	40	7	11502			50 ～ 99
12	2019	11	15 ～ 16	敷地内にて、アーク溶接作業中、危険防止準備に不備があり、木材に引火し、火災が発生し、煙を吸い込み、喉を負傷した。	47	16	30202			1～ 9
13	2019	11	8 ～ 9	会社敷地内の作業場にて、除雪に使用するショベルローダーのバケット部分に雪を削る部品を取り付けるため、半自動溶接機を使用し溶接中、火が衣服に飛び火し、体全体に火が回り、消火器で消化するも全身に熱傷を負い、死亡した。	83	11	40202			10 ～ 29

出典：https://anzeninfo.mhlw.go.jp/anzen_pgm/SHISYO_FND.html(職場のあんぜんサイト)

参考：[労働災害の分類の概要](#)

[各起因物における死傷災害100事例まで（2019年）](#)に戻る。

